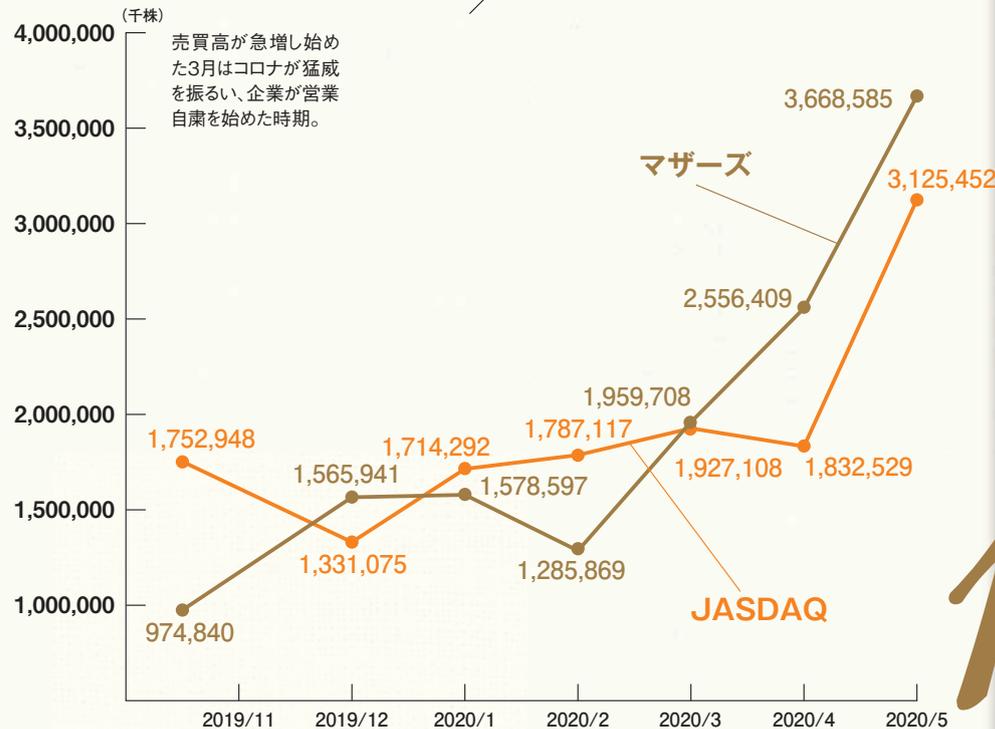


コロナ禍によるステイホームを機に投資を始める人たちが増えている。テレワークが導入された人にオススメなのがデイトレードだ。

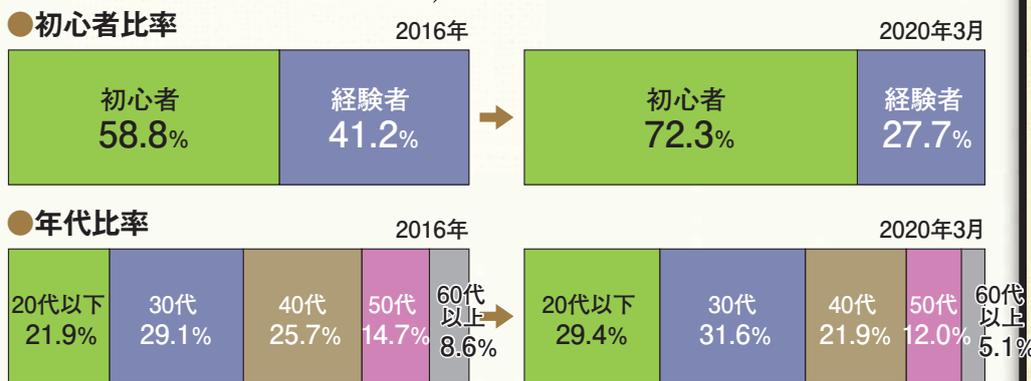
毎朝5分の株式投資で

10万円を稼ぐ

東証マザーズと東証JASDAQの売買高の推移



今年3月に楽天証券に口座開設を行った人の属性の変化



4年前に比べて初心者の比率が高い。コロナ禍に伴うテレワークの増加も影響しているようだ。

ステイホームで個人投資家が急増

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛で、テレワークや時差出勤が導入されたが、コロナ後もこうした流れは続くと思われる。そして、それは自宅で過ごす時間が増えることを意味し、在宅時間をいかに有効に使うかが問われてくる。

そんな中、コロナ禍によるステイホームを契機に投資を始める人たちが増えている。実際、コロナが猛威を振るい始めた3月以降、個人投資家が多く取引する東証マザーズや東証JASDAQといった株式市場では、売買高が急増しているのだ。楽天証券の発表でも、3月の新規口座開設数が過去最高の16万4011口座に上ったという。ソーシャルインベストメント取締役CTOの川合一啓さんは、次のように話す。

「今回のコロナ禍で明らかになったの



ソーシャルインベストメント取締役CTO
川合一啓さん

2013年、会社員をしながら200万円を元手にトレードを開始。2016年、わずか1カ月で全財産3000万円をなくし、タクシー運転手として再就職、再び兼業トレーダーとなる。2017～2018年、年利300～400%達成。2019年、現職。多くの教え子を稼げるトレーダーへ導くべく活動している。

デイトレード 勝率9割の秘訣

1. 9時から5分で利確せよ!

取引が最も活発なのが、相場が開く朝9時。株価がハネたからと欲張って取引を続けていると下がる恐れもある。0.5%のノルマを達成したら、潔く取引を終わらせる。毎日、確実に稼ぐことが大事。

3. 信用取引を恐れるな!

デイトレードはその日のうちに決済するので、FXのレバレッジのように複利計算で損が膨らまない。負けた金額以上の損にはならないので、デイトレーダーの多くが信用取引を活用している。

2. 必ず損切りせよ!

負けているのに、そのうち値が上がるかもと取引を続けていては傷が大きくなる。事前に損切りする金額を決めておき、負けたら未練を残さず損切りする。翌日の取引で改めて勝負すべき。

4. 銘柄選びの3条件を見逃すな!

後述する3条件に当てはまる銘柄は出来高が多く、値動きが激しい。つまり、儲けやすい銘柄。こうした銘柄を寄り付きから取引できれば、より勝ちやすい状況で勝負できる。

は、国や企業は肝心なときに守つてくれないということ。人々は自己防衛のために、投資の必要性に気づいたのだと思います」

在宅時間を有効に使うなら、やはり投資である。そして、川合さんが推奨するのは株式投資、それもデイトレードだ。

デイトレードは初心者でも稼げやすい？

デイトレードとは、株式などの売買を1日で完結させる取引のこと。ポジションを翌日まで持ち越さず、その日のうちに全て決済する。株式投資は株価が安いときに購入し、値上がりした後に売却すればその差額が利益になるというのだが、デイトレードは1日における株価の値動きの中でそれを行って、小さな利益を積み上げていく。従って、取引銘柄の値動きが中長期的に上昇トレンドにあるうとなかろうと、全く構わない。あくまでも、1日における値動きの大きさが勝負が決まる。その意味では、株式投資でよく聞く「ファンダメンタル分析」の知識がなくても、需給（買い売り）の強いほうについていけばよいので、初心者でも取っつきやすいといえる。

しかし、デイトレードというと、パソコンの取引画面から片時も目を離せないようなイメージがあり、正直印象がよくない。デイトレードのような短

期の取引は投機性が高く、初心者には少々抵抗感があるのも事実。

「私の手法は、朝の決まった時間帯に短時間で済ませられる取引なので、パソコンの画面から目が離せないなんてことはありません。スマホでも取引できます。毎日、小さな利益を積み上げていくもので、投資というより「副業」に近いイメージ。勝率も高いし、リスクも小さく抑えられます。ただし、それには取引のやり方をしっかり学ぶ必要があります」

そんな川合さんの取引手法は、その名も「居合い抜き1分トレード」。相場が開く朝9時にエントリーして、5分以内で0・5%の利益を上げるといふものだ。具体的には100万円の投資資金で、毎日5000円を確実に稼いでいく。「たった5000円ぽっち。」と言われそうだが、塵も積もれば何とやらで、1カ月だと約15万円になる計算だ。もちろん毎日勝ち続けることは難しいし、投資を休む日もあるだろうから、実際にはもっと少ない金額になるかもしれない。しかし、川合さん曰く「勝率9割は狙えます」とのことだから、相当に有望な投資であることは間違いない。100万円の自己資金なんて用立てられないという人でも、信用取引を行えば自己資金の約3・3倍まで取引が可能だから、実際にはもっと少ないお金で済む。

そして、取引の儲けを0・5%、5

カン
タン

株式チャートはこう見る!

株式投資を始めるためには、避けて通れないのが「株式チャート」。その基本的な見方をやさしく解説。まずは下記5つの用語を覚えよう!

株価の動きを示したもの。長方形の上下に出ているヒゲは、上が高値、下が安値を示している。始値より高く終わった場合、長方形は白抜き(陽線)で上部が終値、下部が始値、逆に安く終わった場合、長方形は黒塗り(陰線)で、上部が始値、下部が終値を示す。

ローソク足

ローソク足が右肩上がりに上昇しており、移動平均線も上昇していると、その株は上昇トレンドに乗っている。上昇トレンドの時に買うのが基本。値動きが上昇基調にあるときに買って、下降トレンドに転換したときに売却する。

上昇トレンド

上昇トレンドとは逆で、ローソク足が右肩下がりで、移動平均線も下がっている時。初心者は下降トレンド中の株には手を出さないほうが賢明。下降がいつ上昇に転換するか判断できないので、下降が続けば損失を増やすだけとなる。

下落トレンド



移動平均線

一定期間の株価の平均値を計算してグラフ化したもの。株価の大まかなトレンドを見るための補助線。線が右肩上がりならば上昇トレンド、右肩下がりならば下降トレンドと見ることができる。短期、中期、長期の平均線がある。

出来高グラフ

その株がどのくらい売買されたのかを見る。その株の人気が出る(買われる)と棒グラフは高くなり、逆だと低くなる。2本のグラフは、信用買い残と信用売り残を示しており、信用取引によって買い、売り注文でまだ決済されていないものの残高を表している。

000円とあらかじめ設定しているのがポイント。

「5000円の儲けが出た時点で、ストップ取引を終了します。このまま取引を続けても株価が上がるかもしれないが、逆に下がることだって考えられます。そして、デイトレードは1日に何度も取引を行うケースが多いですが、勝負は1度だけです。確実に5000円の利益を出すことが大事。また、損切りするときの金額もあらかじめ決めます。そのうち上がるかもとダラダラ取引を続けていては、損失が大きくなるだけ。資金管理は重要です」

最も稼げる時間帯は相場が開く、寄り付き

取引は相場が開く朝9時にエントリーすると前述したが、これが瞬間的に5000円を稼ぐ秘密でもある。

「この時間帯を、寄り付き」といいます。1日の間で取引が最も活発なので、株価の値動きが激しく、一瞬で利益を出しやすい。また、どこでエントリーするのかは、実は難しい判断が求められるのですが、寄り付きでエントリーすれば、そうした悩ましい判断は不要」

続いては、取引する候補銘柄選び。

川合さんは、①東証1部上場の銘柄②前日の株価変動率が最低でも3%以上③前日の出来高が100万株以上——の3点を基準に候補銘柄を選んでいる。

「出来高が多いということは、多くの

投資家に売買されているということでは、注目銘柄なので、株価が動きやすい。買いたい人も売りたい人も多いわけ、そこに両者のぶつかり合いが生じ、値動きが激しく瞬間的に利益を出せます。ただでさえ寄り付きの時間帯は株価が動きやすいので、しっかりと引銘柄を選定することによって、より勝ちやすい状況で取引できるんです」

こうした銘柄は、探せば毎日50以上はあり、その中から10銘柄程度を選ぶという。具体的には、エクセルファイルに「ヤフーファイナンス」などのサイトにある取引前日の値上がり率上位銘柄を貼り付け、そこから出来高が100万株未満の銘柄をカットして絞り込んでいく。この作業は前日の夕方や夜の空いた時間に行ってもいいし、何なら当日の相場が開く前でも構わない。さらに、当日の8時55分頃から候補銘柄の買い気配であるかどうかをチェックして、取引銘柄を絞り込むだけ。これで瞬時に5000円を稼げるのだからいたってシンプルだ。

「シンプルが勝ち続ける秘訣。これまで朝の9時といえば、会社では朝礼や会議などがあり、取引ができませんでした。しかし、テレワークや時差出勤で在宅時間が増えたことにより、一番稼げる時間帯に会社員でも取引できる人が増えたのです。その意味では、コロナ禍が多くの人たちに株式投資の門戸を開いたのだといえるでしょうね」

銘柄選びの3条件

1. まずは東証1部銘柄を狙え!

出来高が多く、いつでも売買可能な流動性が高い銘柄は東証1部に多くある。機関投資家などのプロが大口で取引を行うため、注文が成立しないリスクは低い。マザーズやJASDAQの銘柄は値動き幅は大きなくても出来高が少ないため、流動性が低いリスクがある。

2. 前日出来高100万株以上

出来高が多いということは、多くの投資家によって売買されている注目銘柄だということ。買いたい人も売りたい人も多くいて、値動きが激しく揺らぐので、瞬間的に利益を抜きやすい。また、流動性も高いので売りやすい。前日の出来高100万株以上が目安。

3. 上昇率上位50位までを狙え!

デイトレードでは1日の利益をより大きく取るために、株価の値動き幅ができるだけ大きな銘柄を選ぶ必要がある。その1つの目安が、株価の変動率。最低でも3%以上は見えておきたい。「ヤフーファイナンス」などの値上がり率ランキングを参考に。

オススメネット証券BEST3

1. 楽天証券

SBI証券と並ぶ、ネット最大手の1つ。300万円までの信用取引手数料が無料。パソコン向けの「マーケットスピードII」やスマホ向けの「iSPEED」などの取引ツールを無料で提供している。

2. 松井証券

300万円までの信用取引手数料が無料。「ネットストック・ハイスピード」というツールは、便利で無料で使える。特に、「スピード注文」や「株式マーケットウォッチャー」が人気だ。外出時は、スマホ向けの株取引ツール「株touch」が便利。

3. SBI証券

ネット証券最大手。信用取引手数料は50万円まで無料だが、100万円までが477円で、300万円までが1277円。「HYPER SBI」というツールは、多くのデイトレーダーが利用。毎月540円かかるが、一定の条件を満たせば、無料で利用できる。